

# パブリックアートにおける彫刻の持つ可能性

芸術学部  
芸術表現学科  
特任教授

前田 哲明



## 研究シーズの紹介

アートの世界で死語になりつつある現代彫刻の存亡を、日々変貌を遂げるパブリックアートの中で生き続ける可能性を追究する。美術館やギャラリーで展開される現代アートの中で彫刻が真の意味で生き残るために押さえておくべきポイントを探る。これが令和4年度の研究活動のテーマであった。昨年、日之出水道機器株式会社佐賀工場にパブリックアート

としての彫刻作品を設置。豊かな緑地の中で空間にインパクトのある設えを実現することが出来たと思う。



## パブリックアート

- 現代彫刻を公共空間で展示することが可能です。
- 公共空間を美術館のような設えにする、空間を美化する効果があります。



## 期待される活用シーン

- 公共空間に精彩を欠き物足りない印象を受ける。



彫刻作品を設置することで、それまで無機質な空間に「彩り」を添えることが出来た。



- 室内空間を美術館のようなアートの空間に変えてみたい。



立体造形作品を展示することでアートな設えを施すことが出来た。



## その他の研究テーマ

・大自然を取込むインスタレーション・アートに関する研究